

◁年会・合同シンポ報告▷

第16回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム報告

実行委員長 鈴木芳生 (JASRI/SPring-8)

2003年1月9日-11日の3日間の日程で、第16回放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムが開催された。前回の年回で実行委員を引き受けてからの最初の(もっとも重要な)仕事は会場探しであった。会場に要求される条件は、会議場自体の設備以外に、1. アクセスの便、2. 安い宿泊施設、3. 飲食店街を含むダウンタウン、である。当然、会場、ホテル、飲食店街は徒歩圏内にあるのが望ましい。さらに、できれば観光地が近隣にあるとなお良い。また、高額な会場使用料は学会の財政を圧迫するために好ましくない。以前 SPring-8 地区で開催された時は播磨科学公園都市内の CAST (先端技術支援センター) を会場としたが、今回無作為に20人程度の方々から事前に御意見を伺ったところ、例外無く播磨科学公園都市での開催に否定的な回答であった(理由はおおよそ上に述べたものである)。そこで、姫路市内を含む数カ所の会場を比較検討した結果、会場はイーグル姫路に決定された。ここは国際会議やセミナー等を対象として2年程前に提設された姫路市の施設であるが、同じビル内には飲食店だけでなく温泉(!)までであるという何とも不思議なものであった。姫路市のご厚意により、会場を優先的に使用出来ただけでなく、会場使用料を無料にして頂いた。このような経緯により今回の共催団体には姫路市が加わっている形式になっている。ご了解頂ければ幸いです。

特別講演としては、最初の特別講演は上坪宏道氏(前 JASRI 放射光研究所所長)(写真1)による放射光科学の展望と題する講演であり、PF から SPring-8 に至る放射光科学におけるビッグプロジェクトとその将来計画に関する講演であった。特にこれからの放射光科学に向けてチャレンジする精神の重要性を強調されていたのが印象的であった。二件目の特別講演としては、台湾 SSRC の Keng S. Liang 氏(写真2)による Asian Collaboration on Synchrotron Radiation と題する講演であった。講演内容は SSRC js SPring-8 に設建した台湾ビームラインでの成果のレビューであったが、SSRC が建設からわずか10年足らずで成し遂げた軟 X 線領域でのサイエンスには目を見張るものがある。現在は間違いなく世界トップレベルであろう。

今回もいくつかの企画講演が行われたが、その中でももっとも注目を集めたのは次世代放射光光源に関する講演(写真3)であった。PF からは次世代計画としてエネルギー回収型線型加速器(ERL)、SPring-8(理研播磨)からは自由電子レーザー(SASE-FEL)計画に関する講演があり、光源計画と利用研究について詳しい紹介が行われた。これらの計画に関しては初めて聞いた方々も(特に若

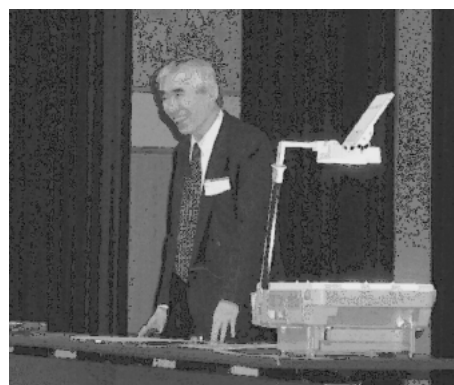


写真1 特別講演中の上坪宏道氏

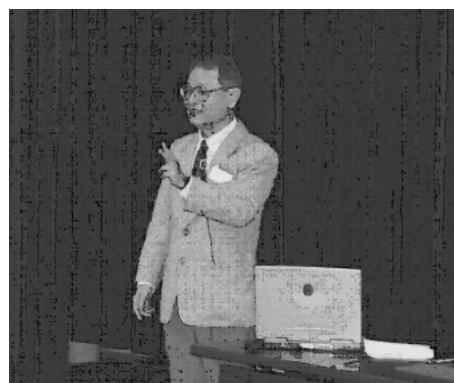


写真2 特別講演中の Keng S. Liang 氏



写真3 特別講演中での活発な討論

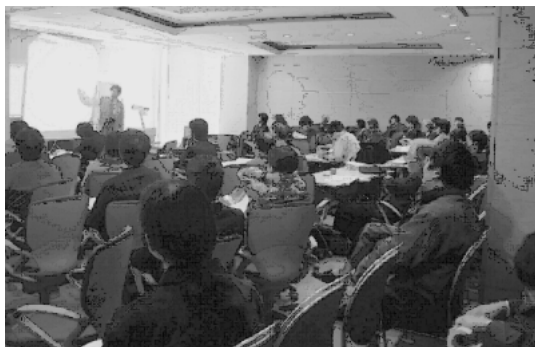


写真4 オーラル発表会場



写真6 焼き肉屋で行われた懇親会

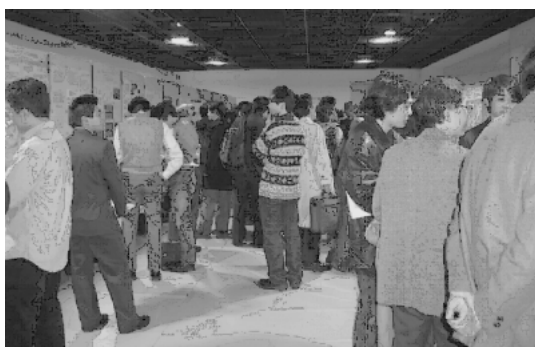


写真5 ポスター発表会場

手研究者の中には)多かったようであり、高い関心を持って聞かれていた。それぞれの計画には色々な事情があり、対象としているサイエンスも異なるので、一言で将来(次世代)計画として括るのは甚だ危険な分類ではある。次世代光源の定義もさることながら、光源としての特性を考えても、一次のコヒーレンスしか持たないが連続(CW)放射である ERL と、高次のコヒーレンスを持つが基本的にはパルス動作である SASE-FEL では大きな違いがある。

現実には、大多数の研究は PF 2.5 GeV リングや SPring-8 でおそらく十分可能であり、現時点では本当に次世代光源を必要とする研究は一部に限られているであろう。ひょっとするとある意味での第四世代は超小型(テーブルトップ?)高フラックス光源かもしれない。しかしなが

ら、10-20年先を考えると光源技術の進歩が新しいサイエンスを拓く鍵であることは確実である。大型プロジェクトの実現に必要な期間を考えると今から利用技術やサイエンスについて考えていく必要があり、それだけに次世代光源が高い関心を持たれているのであろう。

今回の参加者はスタッフや企業展示関係者を除いた参加登録者だけで530名を越える規模になった。これは過去最高だそうである。そのためにか、パラレルのオーラルセッションの会場(写真4)では一部で立ち見になり、聞けなかった方もいたようである。ポスター会場(写真5)も、空調完備であったにも関わらず、予想を超えた人混みに対応できずやっぱり暑かった。今回の懇親会(写真6)は通例の立食パーティー形式でなく、会場階下の焼き肉屋を貸し切って行われた。ここでも予想以上の参加者のために、完全な容量オーバーであった。何人かの方にはキャンセルで対応せざるを得なかった。この場を借りてお詫びいたします。このような変則的な懇親会形式は必ずしも意図的なものではなく、元々は従来の形式を踏襲する予定であったが、適当な会場が1年以上前から予約で塞がっていた為にやむを得ない措置であった。賛否両論があろうかとは思いますが、忌憚のないご意見を下されば今後の参考になると思います。

最後に、献身的に働いて頂いた実行委員会の皆様やアルバイトの学生諸氏、また受付やポスター会場の設営に協力して頂いた JASRI 職員の皆策に感謝いたします。